

▼マックメット懸濁用配合 DS [内]

【重要度】★【透析患者に投与禁忌】 【一般製剤名】水酸化アルミニウムゲル、水酸化マグネシウム Aluminum Hydroxide/Magnesium Hydroxide 【分類】消化性潰瘍・胃炎治療剤

【単位】▼1.2g/包

【常用量】20～45mL/日

【用法】分割投与

【透析患者への投与方法】長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれることがあるため禁忌 (1)

【その他の報告】使用する場合は短期投与とする (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれることがあるため慎重投与 (1)

【その他の報告】短期使用にとどめる (5) GFR 50mL/min 未満では血清 Mg 濃度をモニター、GFR 30mL/min 未満では投与を避ける (17) 腎障害のある患者で過量投与により高 Mg 血症があらわれることがある (1)

【特徴】酸中和薬。下痢を起こす Mg と便秘を起こす Al を合剤にすることで欠点を補いつけている。100mL 中水酸化アルミニウムゲル 56.0g (乾燥水酸化アルミニウムゲルとして 4.5g)、水酸化マグネシウム 4.0g 含有。

【主な副作用・毒性】便秘、下痢、過敏症、高 Mg 血症 [腱反射低下、筋力低下、末梢温暖、皮膚紅潮、徐脈、血圧低下など]、高 Mg 脳症 [傾眠]、精神症状 [Al 脳症]、骨軟化症 [Al 骨症]、アルカローシスなど

【安全性に関する情報】腸管閉塞合併による腎機能正常者の高 Mg 血症の症例 (McLaughlin SA, et al: Ann Pharmacother 32: 312-5, 1998 PMID: 9533062)

【モニターすべき項目】血中アルミニウム、マグネシウム、リン酸値

【相互作用】テトラサイクリン、ニューキノロン、ペニシラミン、ビスホスホネート、ミコフェノール酸、アジスロマイシン、ドルテグラビルナトリウム、レボチロキシシン、セフジニル等との併用注意 [主にキレート形成による吸収阻害と思われるが機序不明なものもある] (1) 活性型ビタミン D 併用による高 Mg 血症 (1) クエン酸製剤併用で Al の吸収増加 (1) アルロイド G と併用する場合は、同時に投与せず、アルロイド G、マグテクト液 U の順序で服用すること (アルロイド G は pH の低い方が活性が高く、また、Al と沈殿を生成する可能性があるため) (5)

【更新日】20240424

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。